

2016 年 10 月 18 日 10 月 22 日改訂

中国・ベトナムの漢文文献の中の南シナ海方面の記述について 補遺 20

嶋尾稔（慶應義塾大学言語文化研究所）

日本人の南シナ海への関与に関する検討の補足である。とくに海軍水路部（以下、水路部）のスプラトリー諸島周辺海域についての測量・海図作製について述べたい。海軍水路部に関しては、[小林 2015] 参照。

水路部がスプラトリー諸島方面について作製した最初の海図は外邦図デジタルアーカイブズで見ることができる次のものでないかと思われる。

海図 529 号甲

支那海南部東区

1904 年（明治 37 年）刊行（1905 年再版）

「本図は一八八一年十一月出版一九〇三年十二月小改正ノ英海軍海図第二六六〇号 B ニ因ル／原図ハ一八八一年マテノ最近諸測量ニヨリ編成ス」とあり、イギリス海軍による 19 世紀中葉以降のスプラトリー諸島海域諸測量事業の集大成（British Admiralty Chart No. 2660B.）を水路部がそのまま受け継いだことが知られる。地図の下部には、“under the Superintendence of Rear Admiral K. Kimotski (sic.), I. J. N. Hydrographer” とあり、当時の水路部長肝付兼行を責任者として発行されたことが知られる。

その後、20 年代の半ばまでのスプラトリー諸島方面での水路部の活動は知られていない。しかし、『日本水路史』によれば、フランスが 1933 年にスプラトリー諸島の領有を宣言する以前から、水路部はこの海域で活動を開始しており、「昭和 4 年（1929）にこの地区の横断航路を略測して以来数回の測量を実施」（西暦嶋尾、以下同じ）した。1936 年（昭和 11 年）と翌 37 年（昭和 12 年）の測量によって、海図刊行が可能となった[海上保安庁水路部 1971: 244]。

そのとき作製された海図は国会図書館地図室で見ることができる。

水路軍機第 521 号

北險礁

地図の下部には「昭和 13 年（1938）3 月 14 日刊行 水路部長 小池四郎」「小改正（昭和 14 年[1939]）-111」とあり、注記に「昭和 11 年（1936）我ガ海軍ノ測量」とある。機密地図は「軍機」と朱書され、朱色の太線で外郭が囲まれている。

水路軍機第 522 号
長嶋附近

地図の下部には「昭和 13 年（1938）4 月 27 日刊行 水路部長 小池四郎」「小改正 （昭和 13 年）-83-（15 年）-9-51」とあり、注記に「昭和 11 年（1936）及同 12 年（1937）我が海軍ノ測量」とある。

水路部軍機第 525 号
新南群島諸分図

地図の下部には「昭和 14 年（1939）6 月 22 日刊行 水路部長 小池四郎」とある。この地図には「注意 本図ハ略測ナルヲ以テ使用者ハ注意ヲ要ス」とあり、スプラトリー諸島南方海域のまだよく知られていない危険地帯 9 箇所について簡略の測量を行った結果によるものであることが知られる。9 箇所の図を一枚の海図に盛り込んでいる。調査の年次については、「昭和 12 年（1937）7 月及同 9 月」（三叉礁）、「昭和 12 年 6 月」（相生礁）、「昭和 12 年 6 月」（二見礁）、「昭和 12 年 9 月」（五ツ礁）、「昭和 12 年 5 月」（三門礁）、「昭和 12 年 9 月」（亀甲島及南洋島附近）、「昭和 12 年 7 月及同 8 月」（長瀬礁）、「昭和 12 年 6 月至同 8 月」（金輪堆）、「昭和 12 年 5 月」（蓬莱礁）とある。

海図番号 249
新南群島諸島嶼

地図の下部には、「昭和 14 年（1939）7 月 14 日刊行 水路部長 小池四郎」「昭和 14 年 7 月 21 日印刷発行 印刷者／発行者 水路部」「小改正（昭和 14 年）-807-（15 年）-213」とある。これは機密海図ではなく、「定価金 1 円 50 銭」と記されている。「昭和 13 年迄ノ諸資料ニ拠ル」との注記がある。北險礁、干津礁及須美礁、鳩礁、千里堆の簡略化された図を一枚の海図に収めたものである。

水路部軍機第 524 号
新南群島

地図の下部には「昭和 16 年（1941）11 月 19 日刊行 水路部長 小林仁」「小改正 （昭和 18 年[1943]）-9」とあり、注記に「昭和 11 年（1936）至同 16 年（1941）我が海軍ノ測量／ボルネオ附近ハ 1939 年迄ノ英国及米国海図ヨリ採ル」とあり、1936 年・37 年以降にも水路部によりこの海域の調査が行われたことが窺われる。英米のスプラトリー諸島周辺海域調査については[Hancox & Prescott. 1995; Hancox & Prescott.1999]が検討している。

このほか、昭和 16 年 3 月には『台湾南西諸島水路誌』が刊行され、その中の第 8 編が新南群島について記述している〔（海軍）水路部 1941: 243-253〕。当然のことながら、機密海図には言及がなく、市販された番号 249 の海図と一時代前の海図 529A（上述の 529 号甲のことであろう）に言及があるのみである。

Hancox と Prescott は、1936 年と 1937 年の調査の結果、日本海軍水路部は以下の海図を 1938 年に刊行したと述べている〔Hancox & Prescott. 1995: 37-38〕。

IJN-HO 521-3 Hakuken Sho

IJN-HO 522 Nakashima Fukin

IJN-HO 523-2 Tizato Tai

IJN-HO 524 Shinnan Gunto

IJN-HO 525 various reefs in Shinnan Gunto

IJN-HO 523-2 Tizato Tai に相当する海図は国会図書館の地図室には存在しなかった。おそらく「水路軍機第 523 号千里堆」という海図が作られていたのであろう。

Hancox と Prescott によれば、第二次大戦後、これらの機密地図を入手したアメリカ海軍水路部は、1950 年 10 月に 521 号と 523 号の機密海図を 5658 North Danger, 5657 Tizard Bank として再刊した。台湾海軍水路局も 523 号機密海図を 1953 年に ROC No. 478 “Tai-Ping Tao and Cheng-Ho Chun-Chiao”として再刊している。また、525 号機密海図も 1951 年にアメリカ海軍水路部によって、1956 年に台湾海軍水路局によって再刊されている。

以上のとおり、1930 年代後半に中国がちゃんと調査もせずにスプラトリー諸島の粗雑な小さな図を団沙群島の名で地図帳に無理やりくっつけようとしている間に、日本海軍水路部は着実な調査に基づくスプラトリー諸島の海図を作製していた。

Hancox ,David & Prescott ,Victor. 1995. *A Geographical Description of the Spratly Islands and an Account of Hydrographic Surveys Amongst Those Islands*. Durham: International Boundaries Research Unit.

Hancox ,David & Prescott ,Victor. 1999. *Secret Hydrographic Surveys in the Spratly Islands*.Asean Academic Pr Ltd（未見）

（海軍）水路部編. 1941. 『台湾南西諸島水路誌：南西諸島・大東島・尖頭諸礁・台湾及附近島嶼・新南群島』東京：水路部.

海上保安庁水路部編. 1971. 『日本水路史 1871-1971』東京：日本水路協会.

小林瑞穂. 2015. 『戦間期における日本海軍水路部の研究』東京：校倉書房.

補足

海上保安庁水路部が第二次大戦後に戦前の南シナ海海図を改定して刊行したもの3点を古書店で入手した。南シナ海の広範囲を対象とした比較的縮尺の小さな海図で、機密海図ではない。

第810号

南支那海 1/4,000,000

昭和10年迄ノ諸資料ニヨリ編纂ス

昭和11年7月23日刊行 水路部長 太田垣富三郎

昭和11年8月6日印刷発行 印刷者／発行者 水路部

小改正

(昭和11年) -1053-1054-1159-1432-

(12年) -55-116-172-233-455-513-534-589-653-686-708-790-832-907-937-1134-1194-1217-1314-

(13年) -64-65-244-416-668-669-725-880-953-1012-1099-

(14年) -246-426-427-526-732-820-885-886-992-

(15年) -41-65-198-214-236-314-570-588-681-964-1011-

(16年) -6-327-528-759-891-

(17年) -520-587-638-

(19年) -173-

(22年) -486-659-

(23年) -203-333-456-652-694-757-761-762-900-

(24年) -56-123-171-204-243-244-398-552-612-

(25年) -224-226-775-930-

(26年) -127-201-202-313-988-990-

(27年) -67

1936年・37年のスプラトリー諸島調査以前にそれまでの情報を集約した南シナ海海図が作られていること、38年以降も戦前戦後を通じて小改正が行われていることが知られる。

第1801号

南支那海 南部東区 1/200,000

1939年迄ノ英国、米国及蘭国海図ニ拠リ編纂ス

昭和15年7月16日刊行 水路部帳 小池四郎

昭和15年7月26日印刷発行 印刷者／発行者 水路部

小改正

(昭和 15 年) -789-966-

(16 年) -403-501-527-528-759-834-1035-1116-

(17 年) -111-400-520-

(18 年) -80-358-

(19 年) -173-

(24 年) -398-474-644-

(25 年) -641-930-

(26 年) -126-313-

(28 年) -165

第 1502 号

南支那海南部西区 1/200,000

1937 年迄ノ仏国、蘭国及英国海図ニ拠リ編纂ス

昭和 17 年 9 月 11 日刊行 水路部長 福島大助

昭和 17 年 10 月 2 日印刷発行 印刷者／発行者 水路部

昭和 30 年 1 月 第 2 版

小改正 昭和 29 年-1003- (30 年) -776-1316- (32 年) -671-375

イギリス、アメリカ、フランス、オランダ各国の海図を参照して作製されたことが明記されているが、当然のことながら機密海図には言及がない。

1930 年代後半以降、南シナ海に関して機密海図だけでなく一般の海図が日本海軍水路部によって新規に作製され随時改定されていたことが確認できる。